

# ケアの人間学

合同研究会要旨集

No. 9 2012年3月

# 目次

---

まえがき .....	堂園 俊彦	2
子どもの緩和ケアの現状 .....	天野 功二	4
——静岡県立こども病院における取り組み——		
精神疾患患者に対する集団音楽療法が意味するもの .....	竹内 幸子	6
——音楽療法の場で起こった相互コミュニケーションの分析——		
感情労働者としての看護師の感情管理 .....	岸 あゆみ	8
～ケアの中で生じたネガティブな感情に焦点をあてて～		
生殖技術と家族のかたち .....	北川 万理子	10
——不妊治療におかう女性の意識——		
しょうがない、のか? .....	吉野 吾朗	12
——緩和ケア医のかかわりから学ぶこと——		
病院で産むという経験——産む人との語り合いから—— .....	佐野 深雪	14
「ケアの人間学」合同研究会の記録 .....		16
「ケアの人間学」合同研究会規約 .....		17

# まえがき

---

堂園 俊彦

『ケアの人間学——合同研究会要旨集——』No.9をお届けします。今年度はわずか3回の開催にとどまり、そのためこの要旨集も昨年に比べて薄いものとなってしまいました。まずはこの点を心よりお詫び申し上げます。

しかし、開催回数は少ないながらも、発表された内容はいつもと変わらず非常に興味深いものでした。第41回の研究会では、天野功二さんから子どもの緩和ケアに関して、また、竹内幸子さんから精神疾患患者の方に対する音楽療法に関して、ご発表いただきました。これらの発表で取り上げられた活動は、いまだ日本では十分に認められてはいません。緩和ケアという言葉自体は広がりを見せていますが、子どもの特殊性を踏まえた取り組みは少なく、音楽療法に至っては、活動自体が十分に評価されているとは言えません。今後のさらなる取り組みが求められるだけに、非常に貴重なお話をうかがうことができました。

第42回の研究会では、岸あゆみさんに看護師の感情労働に関する研究成果を発表していただきました。患者の近くにいる存在として、看護師がケアにおいて重要な役割を果たしていることは疑い得ません。しかしそれゆえに抱える苦悩もあります。この発表では、そうした苦悩と、それに対処するためにとられている方策が、きめ細やかに示されています。もちろんそうした苦悩を抱えるのは看護師だけではありません。第43回研究会においてご発表いただいた吉野吾朗さんは、緩和ケア医として、死にゆく方と向き合うがゆえに生じる苦悩を、そして向き合うがゆえの希望を語って下さいました。

もう一人、第42回研究会において話題を提供して下さいしたのは、現役の助産師である北川万理子さんです。生殖補助技術を用いる女性に対するインタビュー調査から、従来の調査から示された女性のあり方——家父長制や家意識の強い影響のもとで不妊治療を受けているという状況——が変わりつつあることを示していただきました。そして第43回研究会において、同じく助産師であり、同じく女性と技術との関わりについて発表して下さったのは、佐野深雪さんです。佐野さんは、病院で出産する女性に対する見方、すなわち助産所での出産を希望する女性よりも出産に対する意識が低いのではないかといった見方を、現象学的アプローチを用いたインタビュー調査により、批判的に検討しています。

このように、今年度も多様な視点から、質の高い研究成果を共有できたことは、幹事としてとても嬉しいことです。もちろんこうした通常の研究会とは別に、ケアを柱とする研究会である以上、昨年の大震災とその後の援助のあり方を考える企画があってもよかったのかもしれない。しかし私個人として、そうした仕方で震災と関わることには強い抵抗感が、つまり、論じるよりも前に手をさしのべきなのではないかという気持ちがありました。（学問的な営みが無意味と言っているのでは決してありません。）ただ、同時に、「いまのままで進んでよいのだろうか」という疑念があるのも事実です。「がんばろう日本」というスローガンを聞く（見る）たびに、「ケアの広がり」ということを考えざるを得ませんでした。来年度には何らかの形でこうした問い直しの機会を作れたらと考えています。

最後に、会費のお願いです。本研究会は、本誌の刊行などの活動を継続していくために、会員・会費制を導入しております。そのため、本誌および葉書による研究会案内につきましては、会員になられた方にのみ限定しております。本研究会が息の長い活動を続けられますよう、お力添えいただければ幸いです。年会費は一般会員 2,000 円、賛助会員 5,000 円です。（郵便振替口座：00880-1-186850 「ケアの人間学」合同研究会）

（「ケアの人間学」合同研究会幹事）